令和７年度入学
宮城大学大学院事業構想学研究科（博士前期課程）
一般選抜・特別選抜＜社会人・外国人留学生＞
論述専門科目

【出題意図】
事業構想に関する研究を行うに当たって求められる、資料の読解能力、要約能力、根拠に基づく論理的な思考能力について問う。また、参考文献を自らの研究に応用、展開する能力について問う。

問１　本文の内容を 600 字程度で要約しなさい。

【解答例】
サステイナビリティという言葉は、日常会話では馴染みが薄い。これは、サステイナビリティに「もやっとしたわからなさ」や、「つかみどころのなさ」があるからであり、サステイナビリティの持つニュアンスとその和訳「持続可能性」にややズレがあるためである。
サステイナビリティの和訳である「持続可能性」は、持続可能であるかどうかは結果として語られ、そこに主体が不在であっても構わないことから、行動の主体がぼやけてしまう。一方、英語の「sustainability」の語源をたどると、「下から支えて（ある物や事を）維持する能力」という意味が含まれ、「支える主体」が必要となる。また、サステイナビリティの後半の「-ability」の部分を中心に本来の意味合いが抜け落ちており、このニュアンスが「持続可能性」という和訳では十分に伝わっていない。
サステイナビリティの語源からは、広げた両手のなかであるものを下から支えて持ち、将来世代に手渡すというイメージが浮かぶ。サステイナビリティとは、今日まで私たちの社会のなかで大事にされてきたことをまもりながら、これから新しく私たちの社会のなかで大切にされてほしいことをきちんと大切にできるような仕組みをつくり、さらにそのような考え方を次世代につなげる、という考え方であり、「将来世代にまもり、つくり、つなげていきたいことを考え行動していくこと」と再定義することができる（593 字）。

問２　あなたが本学大学院で取り組もうとしている研究について述べ，さらに，筆者が主張するサステイナビリティとの関わりについて考察しなさい。

【解答のポイント】
サステイナビリティの再定義「将来世代にまもり、つくり、つなげていきたいことを考え行動していくこと」であるとする筆者の主張を踏まえて、受験者が取り組もうとしている研究とサステイナビリティとの関係について適切な考察がなされているか。